

環境文化創成プログラム FS 研究 プレ報告・相談会

【日時】2023年6月1日(木) 13:00-16:00

【場所】Zoom

2023年6月1日に松田プログラムの3件のFSが6月12日、15日の地球研ワークショップでの報告を前に、事前プレゼンテーションと内容相談会をオンラインで実施しました。

報告したのは、大手FS、久保田FS、本郷FSで、松田PDと阿部健一コミュニケーション室長がコメンテーター役をつとめました。それぞれが30分程度のプロジェクトの目的と方法、それに調査の中間報告を行い、その後、参加者による質疑、コメントと応答がなされました。

第一報告は「モンスーンアジアの都市住宅におけるパッシブ建築文化の創成(久保田徹)」でした。住宅を研究する目的が、環境にやさしいパッシブ建築を導入、普及させることにあるのではなく、多様なタイプの都市居住区ごとに、どのような住居形式がひとびとによってどのように住まわれているのか、そのパッシブな居住実践から居住思想を導き出していくことにあることが強調された。その住み方、住まれ方は、生活の質の改善と向上につながっていくことが示されました。

第二報告は、「森林の価値とは -森と生きるひとと社会の未来像-」(大手 信人)でした。森林の価値の変化の動因を解明することで、人と森との「隔たり」を改善しようとするこのプロジェクトについては、5年間のFR後に想定されるアウトカムはなにか、歴史、哲学、経済学、アートを含む多様なアプローチと問題意識のなかで、このプロジェクト独自の優先すべき課題は何かなどについてより明確にするための方策が議論されました。

第三報告は、「森林野生動物の持続的で公正な狩猟に向けた地域実践と科学の協働研究」(本郷峻)でした。森林の生態系を研究対象とする生態学者と狩猟採集民を調査してきた人類学者のコラボレーションが基本となって優れた成果をあげてきたことを踏まえた上で、5年間の研究を展望するためには、異質で未知の知的、実践的ネットワークとの接合を意識的に挑戦する必要があるのではないかという助言がなされました。

3つの報告をおえて、FS相互の理解や議論が徐々に深まってきているように思われました。

このプレ報告会に参加した研究員の濱田さんからの感想を短くまとめました。

久保田さんの報告のなかで、とりわけ興味深かったのは、幸福度調査と住まい方調査について詳細についてでした。幸福度調査にあたって計量社会学を専門とするメンバーを加えて調査票の再検討を行い、住まい方調査に関しては、10世帯程度の家を対象に1年間のホームステイを

行って環境面と行動面をレポートしていくという方法は、質的調査と量的調査を組み合わせた厚みのある研究になりそうな予感がしました。また、ニューデリーに代わる新たな調査地であるカラグルについて、現地大学のメンバーから積極的で学際的な協力が得られているのが印象的でした。

次の大手さんの報告は、自然系の研究者が、森林の価値、文化、精神世界、社会的意味、社会意識の構造変容などにユニークな視点からアプローチするという点で魅力的なものでした。ただあまりにも多面的多義的な世界なので、それに一つ一つ対応することで全体が拡散してしまうのではというコメントには頷かされました。しかしどのようにして研究組織と方向をつくりだしていくのか注目したいと思いました。

最後の本郷さんの報告は、詳細な資料と明確な方法論に基づいたものでした。とくに私が興味をいだいたのは、これまでの研究では、狩猟民の在来知に関する研究が基本的には科学知にもとづくものであったという認識から、それを批判して、そこから一歩進み、狩猟民の在来知と科学知の協働という新たな課題を設定した点でした。ただこうした活動を可能にするには、より異業種や異質な知、異質なアクターとの連携が必要ではないかというコメントに共感しました。